

古塩まさよし

後援会だより

Vol. 3 2018年 夏号

〒252-1124 綾瀬市吉岡 3344

http://www.m-koshio-ayase.jp

Email:kik.koshio124@jcom.zaq.ne.jp



地域福祉社会の

実現をめざして

古塩 政由

少子高齢化や人口減少社会の中で、「活力と魅力に満ちた綾瀬をつくる」ため、市長就任以来、誠心誠意市政に取り組んでまいりました。これまでの皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

平成29年度を振り返ると、県内トップレベルの子育て支援に取り組むとともに、産業の活性化では、「ものづくり」「朝採り野菜」「口ケ誘致」と三つのまちづくりを積極的に進めるなど、好スタートが切れたと感じています。

これらの施策を軸にしつつ、30年度においては、誰もが安心して暮らせる「地域福祉社会」の実現をめざして、施策の充実を図ったところです。

●元気高齢者を増やす

綾瀬市も4人に1人が高齢者の超高齢社会に入り、2025年には、団塊の世代が75歳以上となり、介護医療のニーズが急拡大することが見込まれています。こうしたことから、要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう医療、介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が急務です。

その一つとして元気高齢者施策を進めます。昨年綾西地域で行った大学との共同研究で、元気な高齢者は、多様な地域活動や趣味活動を積極的にしていることが明らかになりました。こうした活動を市内全域に拡大し、高齢者が元気に活動できる仕組みづくり

を行っていきます。

また、高齢化の進展で認知症の高齢者が増加しますので、認知症地域支援推進員を市内4カ所の「地域包括支援センター」へ配置し、認知症の方やその家族などへの相談支援、地域での見守り体制を充実します。

●障がい福祉の充実

近年、綾瀬市においても、障がいのある方が増え、障がい福祉の充実も急務です。障がいの重度化、高齢化が進み、福祉ニーズが多様化しています。親の高齢化が進み「親子後」を見据えた支援も大きな課題です。障がいのある方が、地域で暮らしていくためには、親が元気なうちから、ライフステージに応じた支援や個々の状況を踏まえた自立支援が、受けられることが重要です。保健福祉プラザに設置した「障がい児者相談支援センター」の人員体制を強化し、当事者や家族の不安解消など、様々な問題の解決に取り組んでいきます。

また、利用者が増加している放課後等デイサービスにおいては、重度障がい児が受け入れられるよう体制強化も図ります。

今後、障がい児の自立に向けた治療と教育を行う「療育」の向上と、障がい者の自立・社会参加をより一層促進していく必要があることから、「児童発達支援センター」や「障がい者通所施設」等の施設整備についても、方向性を明確にしていきたいと考えます。

●地域福祉の担い手

地域福祉を充実するには、担い手を増やすことも大きな課題です。まずは、買い物や通院の移動で困っている高齢者や障がい者の移動支援を行う、担い手の育成から取り組んでいきたいと思います。

地域福祉の充実には誰もが賛同しますが、誰かがやるだろうと思うのが大半。「誰か」ではなく「自分か」と手を挙げる方がいなければ地域福祉は成り立ちません。この綾瀬にも、そうした方が一人でも多く増えることを期待します。



まさよしレディース結成

女性ならではのきめ細かな連携を



まさよしレディース

会長 柏木 美奈子

古塩まさよし後援会「女性の会」として、「まさよしレディース」が、昨年結成されました。この度、まさよしレディース会長を務めさせていただけます。柏木美奈子と申します。

私は、これまで地域の役員として活動してまいりましたが、このような大役は経験もなく、右も左も分からない状態でございます。しかしながら、古塩市長とは、中学校の同級生であり、微力ながら少しでもお役に立てるのであればと思いい、お引き受けいたしました。

近藤後援会会長を始め、皆様方のご指導、ご支援をいただきながら、不慣れではございますが、精一杯努めてまいりますので、どうぞ

ぞ宜しくお願い致します。

古塩市長は、「子育て」施策として、小児医療費助成を県内最高水準となる中学卒業まで拡充する。また、教育では、小学校三年生まで実施してきた「少人数学習級」を、県内で初めて四年生まで拡充する。このように「子育てするなら綾瀬市」という綾瀬市の「魅力」を高めていただけるものと思っております。

「まさよしレディース」といたしましては、各支部長さんを始めとして、女性ならではのきめ細かな連携を図り、活動することが出来ればと思っております。

皆様には今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

趣味 彩歳



ひまわり

私の写真物語 II

古塩 政由

師と出会い、写真以外でも得たものは大きい。「写真は引き算」といわれるが、それは、主観を引きて、無駄をどう省くかを常に念頭におくこと。これは、仕事でも大いに役立ちました。



▲新春の集い

後援会 活動報告



◎古塩まさよし「新春の集い」開催
平成30年度古塩まさよし「新春の集い」が1月21日（日）綾瀬市オーエンス文化会館大・小ホールにおいて開催されました。当日は400人もの方々に参加をいただきました。お忙しい中をご参加くださいました皆様に感謝申し上げます。

◎支部長会開催
支部長会が4月11日開かれ、7月24日開催予定の「研修バス旅行」開催準備等について話し合われました。

◎第二回支部長会開催
支部長会が6月11日開かれ、7月24日開催予定の「研修バス旅行」集合場所等の調整などが行われました。

もう一つは趣味と仕事。趣味が上達してくると、誰もが趣味に没頭したくなる。我が師も、それを十分心得ていて、私が写真に夢中になると、必ず「仕事」が第一、写真は趣味」と私を戒めた。趣味を優先して仕事がおろそかになる人を、たくさん見た。

写真という素晴らしい趣味を教えてくれた尾道に眠る師と、写真を撮る時間を与えてくれたうえに、私の写真に共感し、また時には鋭い批評をくれる妻に心から感謝したいと思う。